
双子

昼乃春空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子

【Nコード】

N5735Z

【作者名】

昼乃春空

【あらすじ】

とある学校に在籍しているとある双子のちよっぴり変わった、特別な一日のお話です。

プロローグ（前書き）

汚い文章ですが最後まで見てくださったらうれしいです。

プロローグ

私には双子の弟がいる。名前は雲上くもがみ空そら。歳は17歳の高校二年生。弟はいつもまっすぐでその場にいるだけで皆を引き付けるスター性がある。

それに私とは違って運動神経抜群で部活のサッカーでエース的な立場にいる自慢の弟だ。

私はそんな弟が誇らしいと同時に、私の持っていない物を全部持っている弟が少し……妬ましい。

ジリリリリリリリ！ と喧しい音が部屋中に響き渡る。私は無理やり重いまぶたを開け、なんとか布団から這いずり出て現在進行形でなり続ける目覚ましを止めた。

私はまだ酸素が体に行き渡ってない体を無理やり動かし、立ち上がってそのまま朝ご飯のいい匂いがする一階のリビングに行くため階段を下っていった。

「おはよう、茜あかね」

「ん、おはよう、お母さん」

階段を下りきったところで朝ご飯の準備をし終わった母と挨拶を交わすとすぐ自分の席に座って、いただきますをしっかり言って朝ごはんを食べはじめた。

すると階段からドダドダドダドダといううるさい音をたてながら弟の空がりビングに下りてきた。

「い、いま何時!?!」

弟は下りてくるなり慌てたふちにそう言った。すると母は少しもびつくしたり素振りも見せずに、「7時よ」と言った。

「まじかよ!?! 何で起してくれなかったんだよー!?!」

そう言った弟に「なんども起したのよ」と言った母も気にせず、い
ただきますも言わずに弟は朝食をマッハで食べ始めた。めっちゃこ
ぼしてる。

「ごちそうさまー!!」

開始わずか30秒でトーストとサラダと目玉焼きを平らげた弟はす
ぐにカバンを持ってぼさぼさの寝癖も直さずに「いってきまーす!
!」と言って家を飛び出していった。そんな弟に「いってらっしや
ーい。気をつけてねー」と母は言って、すぐに弟の食器を片付け始
めた。

「まったく、部活の大会当日に寝坊するなんて……エースがそんな
調子で大丈夫かしら?」

私が半分ふざけてそう言うと、母が「まあ、いつもの事だしね〜」
とマイペースな返事をしてきた。まあ……たしかにそうね。

「それより、茜は今日のピアノのコンクールは大丈夫なの?」
と言った母に私は余裕の口ぶりでこう言った。

「私がでるコンクールは午後の部からだから時間は全然平気よ」
そう言った私に母は少し微笑みながら「そう、じゃあ大丈夫ね」と
言って弟の食器を洗い始めた。

そして私も朝食を食べ終わり、洗面台に行つて歯を磨き、顔を洗つ
て、寝癖を直してリビングに置いておいたカバンを取った。

「それじゃあ、私もそろそろ行くね」

そう言った私に母は「うん、がんばってね期待してるから。いって
らっしやい」と言って送り出してくれた。

私は「絶対金賞取ってくるよ」と言つてリビングから玄関に行き、
ドアを開けていってきますと言つて家を出た。

プロローグ（後書き）

他の作品が全然終わってないのにまた連載小説出しちゃったのはすごい申し訳ないですが、他のもこれもちゃんと終わらせられるよう頑張っ て行きたいと思っています！ まあ誰も待ってないと思いますがね！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5735z/>

双子

2011年12月19日02時51分発行